

民具マンスリー

[編集担当] 樫村賢二 佐野賢治 神かほり 角南聡一郎 浜野達也 加藤友子

[編集協力] 刈田 均 鈴木通大 森本仙介 安室 知 兼子美保子

民具マンスリー誌面の新展開に向けて

角南 聡一郎

民具マンスリーは民具研究者、博物館関係者を中心として、民具に興味関心を抱く人々にむけて、情報発信をおこなうことを目的とし、毎月刊行されている。

2020年度は、新型コロナウイルスの影響で、神奈川大学への入構制限がなされた関係で、日本常民文化研究所の活動に影響が生じ、『民具マンスリー』に関する諸活動も滞った。移動が制限され自宅で自粛生活を送ることが多くなり、今年度は本誌への投稿が減少することが予想されたものの、編集室諸氏のご尽力により、なんとか運営することができた。編集会議はZoomを利用したオンラインにより実施され、2020年度から編集に加わった筆者にとっては、常民研の一員にさせていただいたという実感が、伴わないままのスタートとなった。

こうした非日常の状況というピンチではあるが、編集室では新たな試みにチャレンジする良い機会となったともいえる。2020年度は、民具マンスリー53巻1号から12号までを刊行した。特に注目すべきは、現代民具、ポスト民具とでもいうべき資料を対象とした論考が掲載できたことである。内田隆「電極式のパン焼き器と炊飯器」(53巻10号)、寺農織苑「玩具の保存と継承——ファミリーコンピュータを例に——」(53巻8号)、萩谷良太「「たにし人形」の造形力——郷土工芸品「かすみ人形」の展開——」(53巻12号)などがそれに該当する。

2020年9月より常民研のFacebookとTwitterがスタートした。こうしたSNSで民具マンスリー

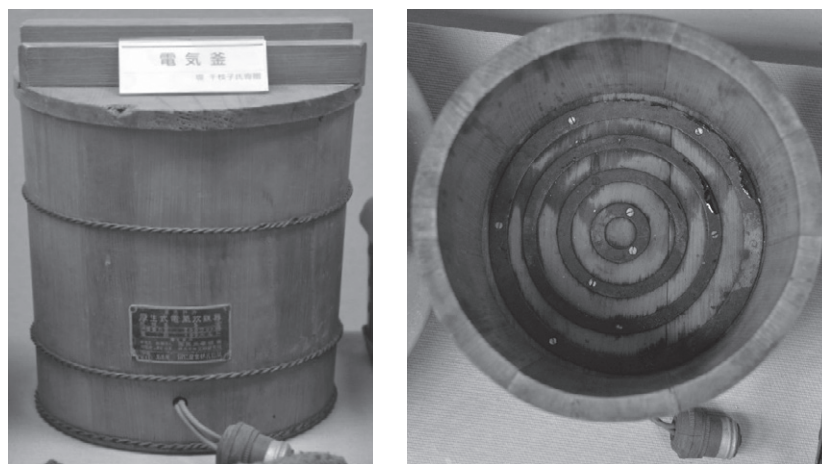


写真1 厚生式電気炊飯器 (平塚市博物館所蔵) (内田2020)



写真2 ファミリーコンピュータ (寺農 2020)

に関する情報も発信されている。53巻8号の表紙には先の寺農論文のファミリーコンピュータが使用されたため、SNSで少なからず反響があった。現代社会における情報取得方法からすれば、SNSで民具マンスリーの内容を発信することは、効果的であると考えられる。

「シリーズ 民具と出会う」は、樫村賢二「神崎宣武の民具研究——シリーズ 民具と出会う9——」（53巻4号）と、神かほり「縣敏夫の民具研究——シリーズ 民具と出会う10——」（53巻11号）を掲載した。特に後者の縣敏夫氏のインタビューでは、アチック・ミュージアム同人であった村上清文氏との交流や、常民研と石造物研究の関わり、潮田鉄雄氏に手ほどきを受けて民具実測をおこなったエピソードなど、これまであまり知られていなかった常民研関係の情報が語られたことは非常に有意義であった。アチックに関係した人々について、詳細が不明とされる方々も少なくなく、これらを確認していく作業が必要であると痛感した。



写真3 柳町とく製作とされる「たにし人形」(土浦市立博物館所蔵) (萩谷 2021)



写真4 三田二の橋の常民研にて(昭和49年頃 縣敏夫氏提供) (神 2021)

■ 2020年度の活動

【『民具マンスリー』編集のための取材】

○縣敏夫氏へ「シリーズ 民具と出会う」インタビュー電話取材 2020年7月29日 神かほり

【『民具マンスリー』編集会議日程】

日 程 (通算)

第1回(第389回)	2020年4月27日	第5回(第393回)	2020年9月29日	第9回(第397回)	2021年2月26日
第2回(第390回)	2020年6月12日	第6回(第394回)	2020年10月23日	第10回(第398回)	2021年3月18日
第3回(第391回)	2020年7月17日	第7回(第395回)	2020年12月18日		
第4回(第392回)	2020年8月21日	第8回(第396回)	2021年1月21日		

on-line 開催